

# 令和4年度『保育者として働く卒業生対象のアンケート調査』 集計結果

駒沢女子短期大学  
自己点検・評価委員会

## 1. 調査概要

- (1) 調査対象：平成29年度～令和3年度卒業生（有効回答65名）
- (2) 調査時期：2023年 1月18日（水）～ 3月31日（金）
- (3) 調査方法：インターネットを介した質問紙調査  
（アンケートフォームのQRコードを記載した案内文書を送付し回答を求めた）
- (4) 調査項目
  - ・卒業年度（保育経験）
  - ・資格取得状況（幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格）
  - ・現在の勤務先と雇用形態
  - ・保育者として求められる資質・能力（ディプロマ・ポリシー：遊び力・表現力に相当）
  - ・社会人として求められる資質・能力（ディプロマ・ポリシー：思考力・人間力に相当）
  - ・本学の教育活動の中で印象に残っている事項
  - ・本学在学中にもっと学修したかった事項
  - ・本学の教育活動に関する意見・要望

次ページ以降に集計結果を記載

## 2. 集計結果

### (1) 卒業年度（保育経験）

令和4年度の調査に回答した65名の卒業生の経験年数は図1に示す通りである。

3年目が21名（32%）と最も多く、4年目、1年目と続いた。

### (2) 資格取得状況（幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格）

令和4年度の調査に回答した65名の卒業生の資格取得状況は図2に示す通りである。

全体の95%（62名）が、幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格を両方保持していることが分かった。

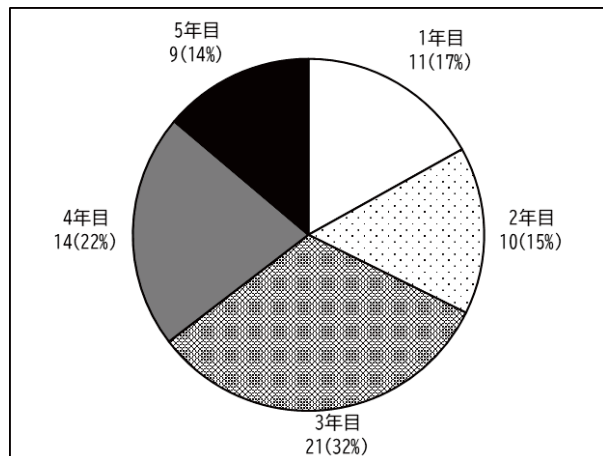


図1. 卒業生の経験年数別内訳

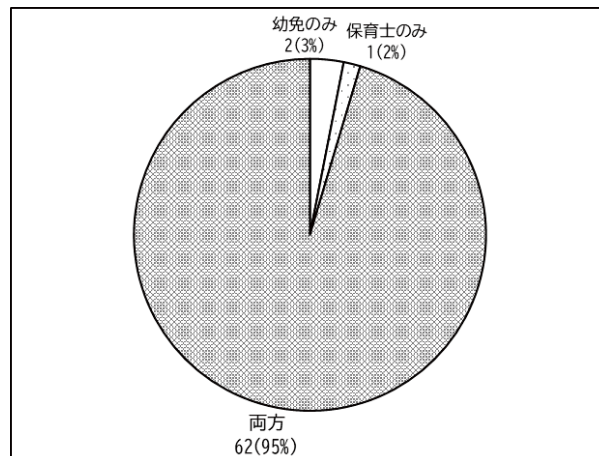


図2. 卒業生の資格取得状況

### (3) 現在の勤務先と雇用形態

#### ①勤務先

令和4年度の調査に回答した65名の卒業生の勤務先は図3-1に示す通りである。

現在の社会情勢にみられる通り、保育所に勤務する卒業生が、全体の45%（29名）と最も多く、幼稚園が28%（18名）、認定こども園が21%（14名）と続いた。

令和3年度（図3-2）と比較すると、認定こども園に務める卒業生の割合が10ポイント程度増加した。

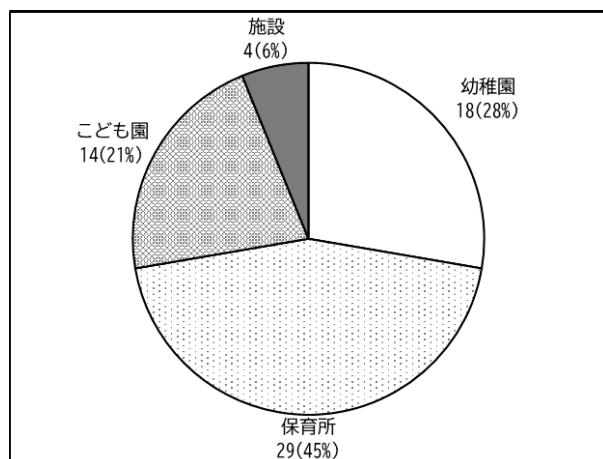


図3-1. 令和4年度における卒業生の勤務先内訳

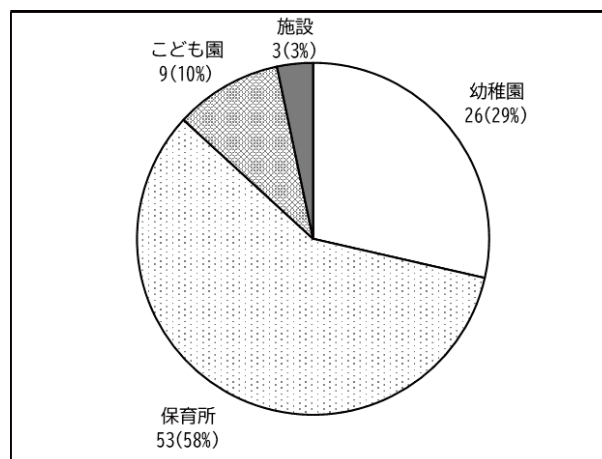


図3-2. 令和3年度における卒業生の勤務先内訳

## ②雇用形態

令和4年度の調査に回答した65名の卒業生の雇用形態は図4に示す通りである。

正規（フルタイム）職員として勤務する卒業生が最も多く、全体の92%（60名）を占めた。なお、本年度は、パートタイムで勤務する卒業生の回答は得られなかった。

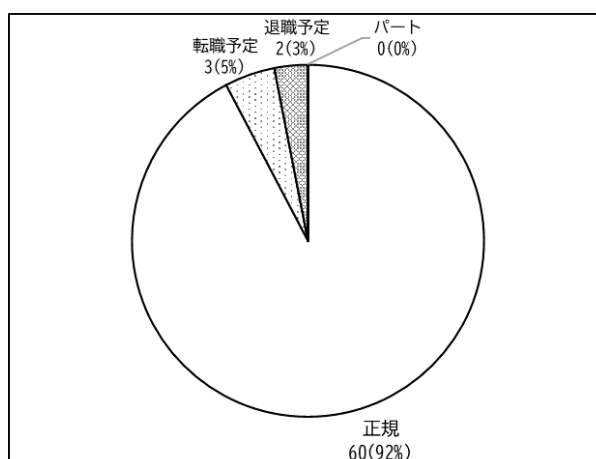


図4. 卒業生の雇用形態

### (3) 保育者として求められる資質・能力

保育者として求められる資質・能力（本学のディプロマ・ポリシー「遊び力」「表現力」にも相当する）について、どの程度実践することができるか、卒業生自身に評価してもらった（図5：5ページ）。

その結果、子ども（利用者）の「④幸せを最善に考えること」や「⑤思いの共鳴」、「⑥個性の受容」「⑦信頼関係の構築」「⑰遊び（活動）を共に楽しむこと」は実践できると高く自己評価する卒業生が多かった。また、「⑧保護者への積極的関与」についても同様であった。この結果は、保育者としての基本資質の獲得に加え、本学において身に付けた「遊び力」を活かしていることもうかがわせるものである。

他方で、「⑮様々な遊び（活動）を知っている」や、「⑲音楽」や「⑳造形」を通じた自由表現については自己評価が低かった。知っている遊びの種類（引き出し）や、音楽・造形による自由表現の機会を増やすことは、今後のカリキュラム編成にも活かしていきたい。

### (4) 社会人として求められる資質・能力

保育者として求められる資質・能力と同様に、社会人として求められる資質・能力（本学のディプロマ・ポリシー「思考力」「人間力」にも相当する）について、どの程度実践することができるか、卒業生自身に評価してもらった（図6：6ページ）。

その結果、「③正しい生活習慣」や「⑦自然や美しいものに感動する心」、「⑫人の気持ち考えること」「⑭思いやりの気持ち」「⑮進んで協力すること」については、卒業生の自己評価が比較的高かった。

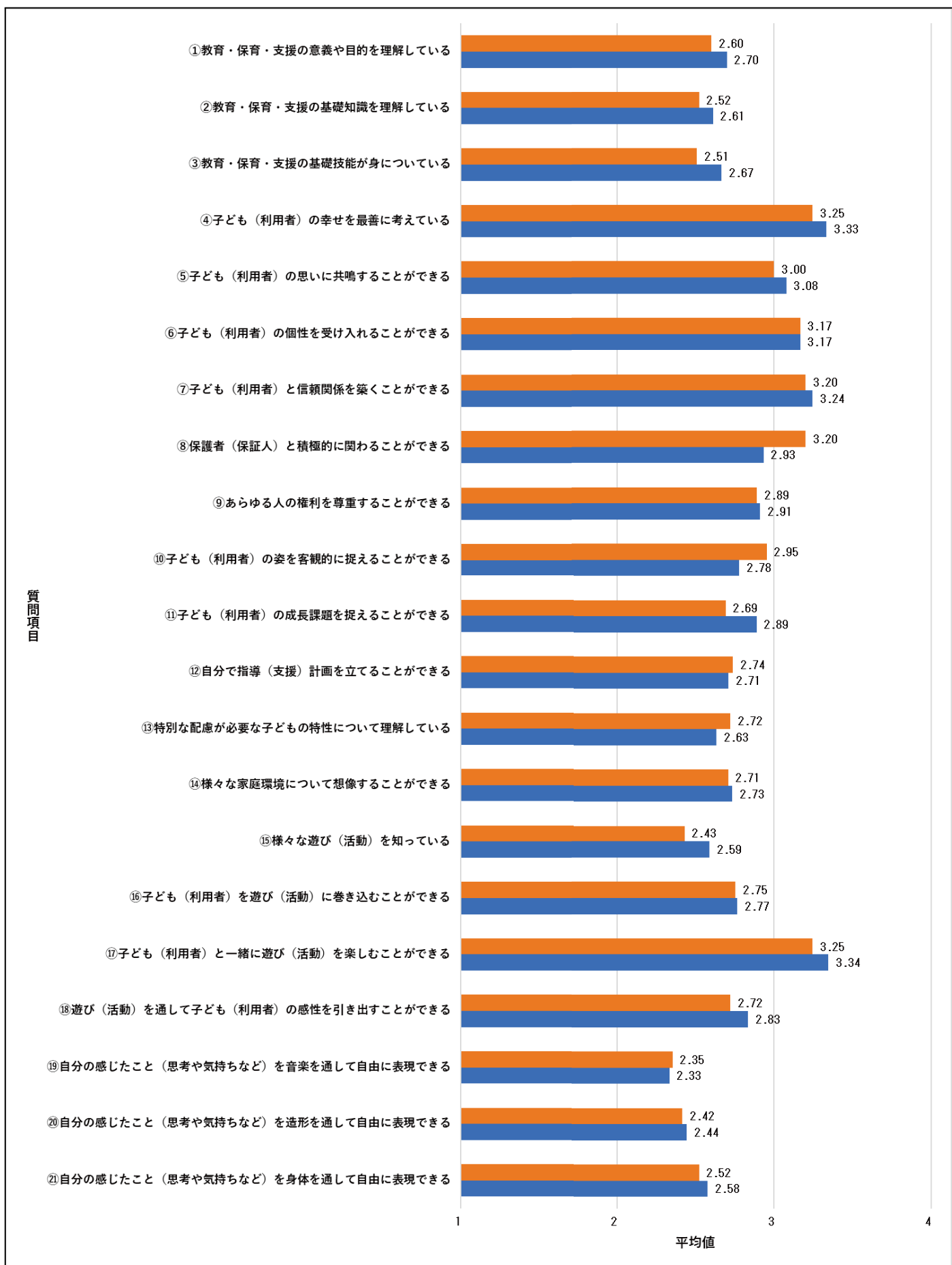
しかし、「①適切な文章表現力」や「②豊かな語彙力」、「⑤社会の出来事への関心」「⑧積極性」「⑩物事を客観的に捉えること」「⑪物事の問題や課題への気付き」については自己評価が低かった。これらの項目は、主に、本学のディプロマ・ポリシーにおける「思考力」に相当するものであることから、基礎学力の定着をはじめ、授業等に課題解決型の活動を多く導入するなど、教育活動の展開方法の改善を図っていきたい。

※1：（3）（4）の分析にあたっては、基準を「2：そう思う」もしくは「3：とてもそう思う」に設定し、その高低により解釈を行った。

※2：これらの資質・能力については、経験年数（回答年）や勤務先の園種別などによる違いも想定される。

本学のカリキュラム・マネジメント（学修成果の評価）の充実に向け、今後、より精緻な調査・分析を行う。

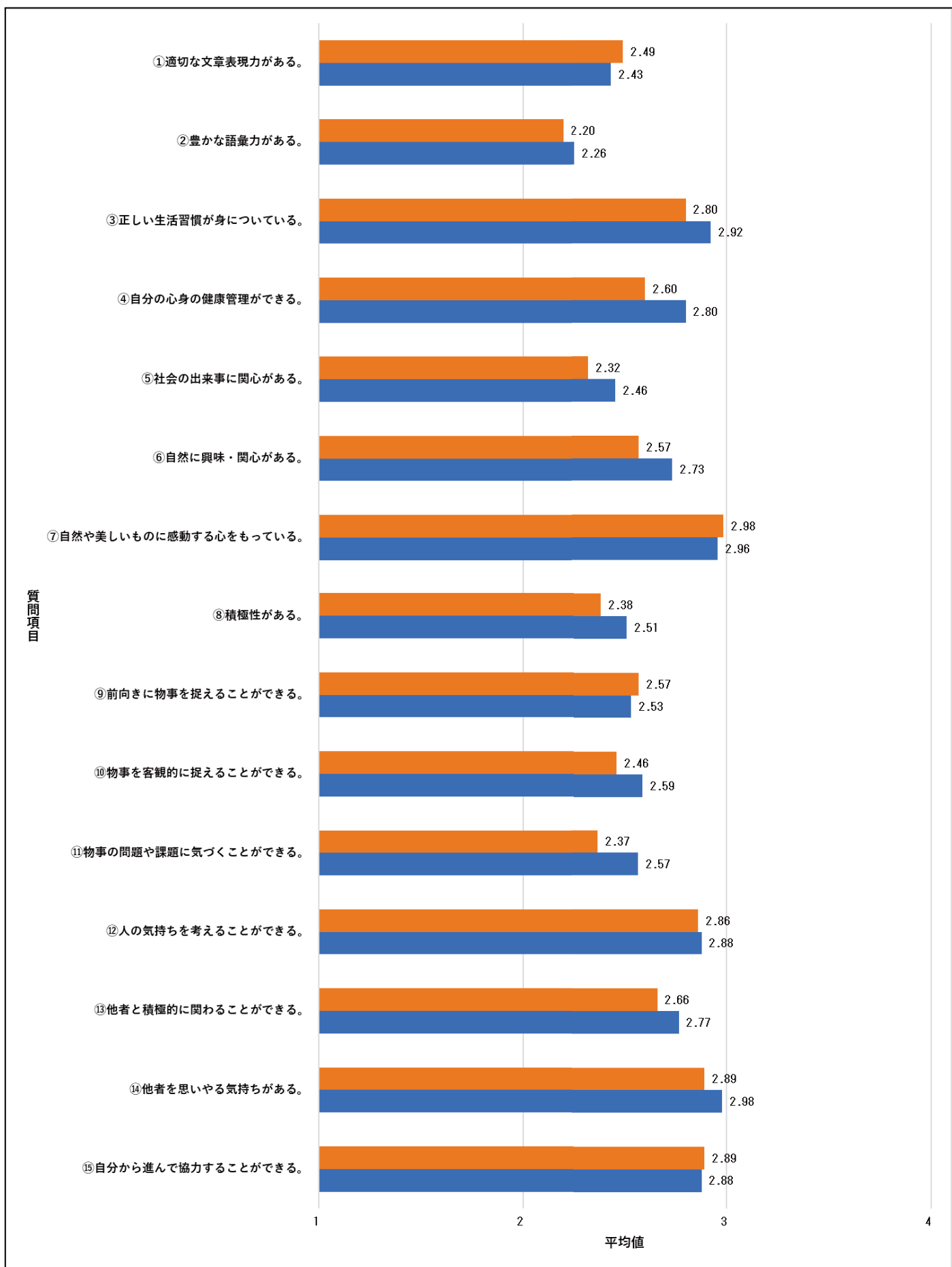
次ページ以降に図5・図6が続く



※1：グラフ上段（令和4年度）・下段（令和3年度）

※2：表中数字「1：そう思わない」「2：そう思う」「3：とてもそう思う」「4：非常にそう思う」

図5. 「保育者」として求められる資質・能力の平均値



※1：グラフ上段（令和4年度）・下段（令和3年度）

※2：表中数字「1：そう思わない」「2：そう思う」「3：とてもそう思う」「4：非常にそう思う」

図6. 「社会人」として求められる資質・能力の平均値

(5) 本学の教育活動の中で印象に残っている事項

本学の教育活動において、卒業生の印象に残っていることを尋ねた結果、最も回答が多かったものは、身体表現発表会（26％）及び表現系授業（26％）であった。次いで、保育・教職実践演習（20％）と実習（15％）と続いた（図7）。

いずれも「演習」「実技・実習」系の教育活動であり、卒業生を介しても、アクティブ・ラーニングの重要性をうかがうことができた。これらの活動は、カリキュラム上、先述した課題解決型の活動の中核にも位置付くものであることから、各活動の充実をより図っていきたい。

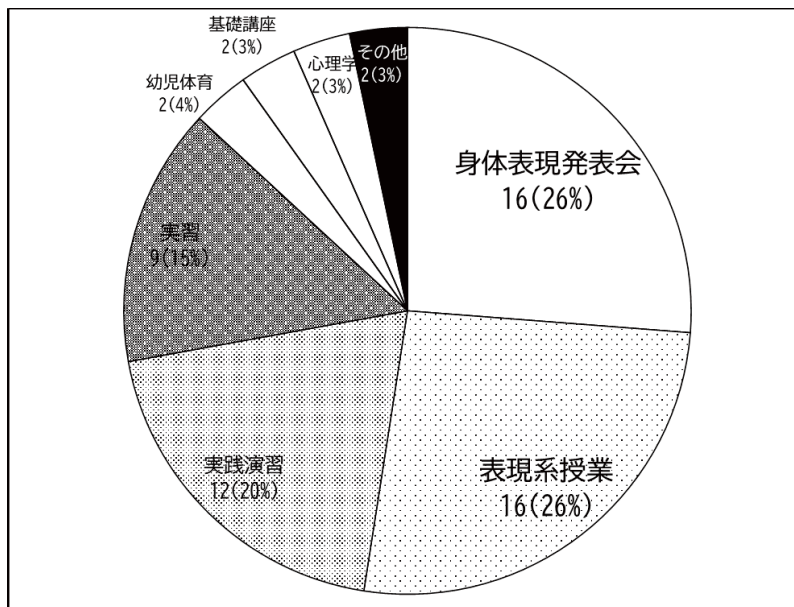


図7. 本学の教育活動の中で印象に残っている事項の内訳

(6) 本学在学中にもっと学修したかった事項

卒業生が在学中にもっと学修したかった事項を集約した結果は、図8の通りである。

最も多かったものは、表現遊び（29％：18件）であり、音楽・造形活動のレパートリーを増やしたい主旨の意見が多数寄せられた。この他にも、子どもの年齢に応じた遊びの種類（16％：10件）や自然遊び（5％：3件）などの意見もあり、**卒業生の多くが遊び全般の引き出しが増えるような教育活動を望んでいる**ことがうかがえた。この結果は、（3）保育者に求められる資質・能力においける項目「⑮様々な遊び（活動）を知っている」の自己評価が低かったことと合致するものでもある。

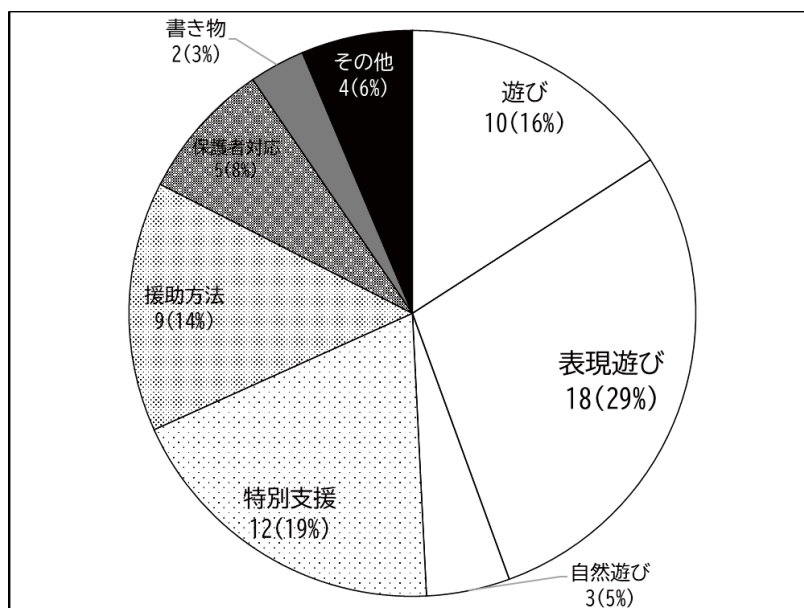


図8. 本学在学中にもっと学修したかった事項

(7) 卒業生対象のフォローアップ・セミナーの要望

- 特別な支援を要する子どもの支援
  - ・特別な支援が必要な子どもへの援助方法やその程度
  - ・具体的な援助事例（例：落ち着きのない子どもへの声掛け方など）
  - ・療育センターの機能と連携
- 保護者対応
  - ・保護者との関わり方
- 保育方法
  - ・子どもの主体性を引き出す保育方法
  - ・手遊びや絵本の種類
  - ・体操での援助方法（どのようにばた足や背泳ぎなどを教えたらいいか、鉄棒やマット運動などの援助方法等）
- 一般教養に関するもの
  - ・語彙力が向上する授業
- メンタルヘルス
  - ・アンガーマネジメント
  - ・落ち込んだ時の自分なりの改善方法
- 転職
  - ・転職する方法

(8) 本学の教育活動に関する意見・要望

- 駒女の教育活動は全て充実していました。実践することが多かったため、経験として培われ、力となっています。
- 外遊びで、ルールのある遊びを沢山学べるように出来ると良いかもしれない。

以上

駒沢女子短期大学  
自己点検・評価委員会  
古屋 真